

令和5年

消防年報



歌志内市消防本部

は し が き

1. この年報は、歌志内市における消防現況並びに令和5年中の消防業務の諸資料及び火災統計の集録、消防事情の紹介など、今後の火災予防をはじめとする消防行政推進の資料とすることを目的として編集したものです。
2. この年報は、令和5年12月末日現在で編さんしたのですが、統計表等については、その推移を明らかにするため、過去数年を対比してまとめました。

令和6年3月

歌 志 内 市 消 防 本 部

目 次

歌志内市の現況と消防の沿革

1. 地 勢	1 頁
2. 気 象	1 頁
3. 月別気象状況表	2 頁
4. 人口・世帯数	3 頁
5. 市勢に対する消防現勢との比較	3 頁
6. 人口・世帯の推移	3 頁
7. 歌志内市消防の沿革	4 頁
8. 令和 5 年行事記録表	9 頁

消 防 力 の 現 勢

1. 消防組織	12 頁
(1) 消防機構	12 頁
(2) 消防職員階級別表	13 頁
(3) 消防職員配置表	13 頁
(4) 消防職員年齢別表	14 頁
(5) 消防職員勤続年数表	14 頁
(6) 消防職員教養訓練状況 (既往 5 ヲ年)	15 頁
(7) 消防職員技能資格調	15 頁
(8) 消防団員定員実員状況	16 頁
(9) 消防団員勤続年数表	16 頁
(10) 消防団員年齢別表	17 頁
(11) 消防団員任免状況	17 頁
2. 消防施設	18 頁
(1) 消防機械	18 頁
① 消防車両現勢一覧表	18 頁
② 消防機器積載状況	19 頁
③ 特殊器具等一覧表 (車載分含)	20 頁
(2) 消防無線	21 頁
(3) 水利現勢	22 頁
(4) 消防庁舎	22 頁
(5) 通信施設系統図	23 頁
(6) 通信・気象観測施設	24 頁

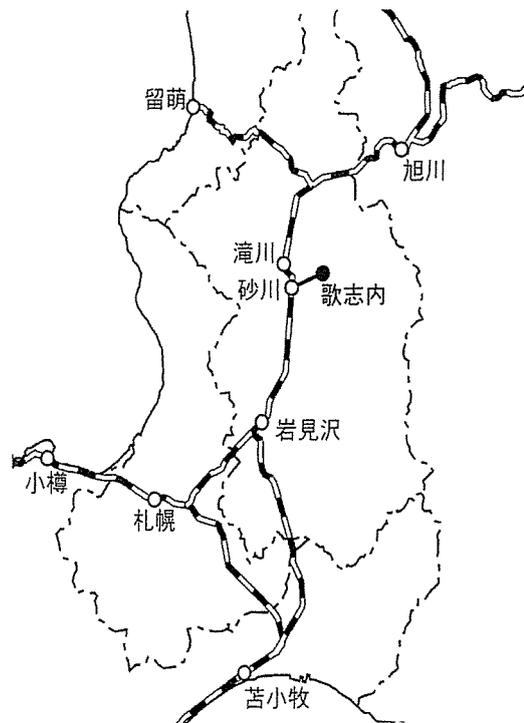
(7) 緊急通報システム	25頁
① ふれあいネットワーク（消防センター）	25頁
② 発信種別通報	25頁
③ 処理別回数	25頁
火災と救急・救助	
1. 火災概況	26頁
(1) 令和5年火災記録	27頁
(2) 既往10ヵ年月別火災発生状況	28頁
(3) 既往10ヵ年火災状況	29頁
(4) 既往10ヵ年原因別出火件数	29頁
(5) 既往10ヵ年時間帯別火災発生状況	30頁
(6) 既往10ヵ年曜日別火災発生状況	30頁
2. 救急概況	31頁
(1) 月別救急出場状況	32頁
(2) 時間別救急出場状況	33頁
(3) 曜日別救急出場状況	33頁
(4) 年齢・性別搬送状況	34頁
(5) 事故種別・性別搬送状況	34頁
(6) 地区別発生状況	34頁
(7) 傷病程度別搬送状況	34頁
(8) 救急隊員の行った応急処置件数	35頁
(9) 覚知別受信状況	35頁
(10) 医療機関別搬送状況	35頁
(11) 診療科別搬送状況	35頁
(12) 既往5ヵ年事故種別出場状況	36頁
(13) 普通救命講習会実施状況	36頁
(14) 一般救急講習会実施状況	36頁
3. 救助概況（既往5ヵ年）	37頁
予防行政	
1. 月別建築同意・通知処理状況	38頁
2. 消防業務処理状況	39頁
3. 防火管理者業務状況	40頁
4. 危険物製造所等現在数調	40頁
5. 危険物規制事務手数料	40頁
6. 防火広報活動	41頁

歌志内市の現況と消防の沿革



位置 北緯 42° 26'' ~ 43° 31''
東経 142° 5'' ~ 141° 58''

面積 55.95km²



1. 地 勢

歌志内市は石狩平野の東北隅の山麓地帯にあって、周囲は芦別市、赤平市、砂川市、上砂川町の4市町に接している。

この流域は夕張山脈の北に当たり、山岳地帯に源を発して西流するペンケウタシュナイ川とこの川に注ぐ小流の占める流域を北部とし、南部は西山を主峰とするペンケウタシュナイ川以南の山岳地帯に分けることができる。

東部および南部は最南端に位置するペンケ山を主峰とし、他の600メートル前後の山々と、これらを結ぶ山脈を境として芦別市に接し、北部は赤平山、神威岳を境とし赤平市に接している。

また西部および西南部は次第に開けて砂川市および上砂川町に隣接している。

2. 気 象

冬季は湿潤寒冷であるが、夏季は温暖で春より初夏にかけて乾燥し、晩夏から秋は比較的雨が多く、年間を通じ当市の気温は空知管内の平均に近いが、寒暖の差がかなり大きい。

風は地形上から年間を通じ穏やかで西寄りの風が多く、やや内陸性をおびている。

また、降水（雪）量も山間のため管内の他市町より量が多い。

なお、令和5年の気象状況は次表のとおりである。

3. 月別気象状況表

種別	月別												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
気温 (°C)	最高	4.6	8.1	15.1	18.1	26.2	30.1	32.6	34.9	30.4	22.6	20.5	11.6
	最低	-24.6	-20.6	-11.6	-4.4	-1.3	3.3	12.7	17.7	6.2	-0.1	-8.3	-17.6
	平均	-8.6	-6.4	1.1	6.7	12.2	18.0	22.4	25.0	18.9	9.8	4.0	-4.2
湿度	相対	51.9	51.3	28.0	12.2	15.9	30.7	37.5	45.3	32.1	38.5	42.5	47.6
	実効	84.6	85.2	78.7	71.6	71.1	78.5	84.9	84.6	88.0	89.4	89.8	91.9
風速 (m/sec)	最大 (10分平均)	81.5	79.2	72.4	60.2	61.9	69.5	78.7	74.9	84.5	85.2	83.0	87.4
	平均	85.0	85.7	79.0	71.9	71.0	77.8	84.6	84.5	88.0	89.2	89.6	91.9
最多風向	最大	4.5	3.9	4.0	5.2	4.9	4.6	5.3	5.6	5.2	4.8	6.1	5.4
	平均	0.8	0.8	0.8	1.1	1.1	1.2	1.1	1.1	0.9	0.9	1.1	1.0
晴 雨 日 数 (日)	最多	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	南東	西北西	西北西	西北西
	晴	11	13	13	10	17	13	12	18	15	14	8	4
	曇	11	8	16	15	14	16	18	12	14	12	14	17
	雨	0	0	1	5	0	1	1	1	1	5	2	0
降雪量 (mm)	降雪	9	7	1	0	0	0	0	0	0	0	6	10
	合計	304	265	17	1	0	0	0	0	0	0	295	420
降雨量 (mm)	0	0	70.0	127.5	43.5	99.0	34.5	190.5	174.0	171.0	108.0	11.0	

4. 人口・世帯数

人 口	男	1,274 人	2,668 人
	女	1,394 人	
世 帯 数			1,654 世帯

5. 市勢に対する消防現勢との比較

種 別 \ 区 分	消防職員 1 人当	消防団員 1 人当	消防車 1 台当
人 口	121.3 人	59.3 人	667 人
世 帯	75.2 世帯	36.8 世帯	413.5 世帯
面 積	2.5 km ²	1.2 km ²	14.0 km ²

6. 人口・世帯の推移

年 別 \ 区 分	人 口	世 帯	消防職員数	備 考
平成12年	6,118	2,973	27	
平成13年	5,977	2,942	28	
平成14年	5,846	2,880	28	
平成15年	5,726	2,853	28	
平成16年	5,560	2,797	28	
平成17年	5,361	2,745	27	
平成18年	5,200	2,693	26	
平成19年	4,989	2,594	24	
平成20年	4,792	2,510	25	
平成21年	4,644	2,456	24	
平成22年	4,467	2,377	23	
平成23年	4,308	2,303	23	
平成24年	4,178	2,262	23	
平成25年	4,033	2,216	23	
平成26年	3,833	2,143	23	
平成27年	3,664	2,074	23	
平成28年	3,524	2,015	23	
平成29年	3,408	1,980	22	
平成30年	3,275	1,908	22	
令和元年 (平成31年)	3,130	1,834	23	
令和2年	3,019	1,788	23	
令和3年	2,916	1,761	24	
令和4年	2,790	1,714	23	
令和5年	2,668	1,654	22	

7. 歌志内市消防の沿革

一 消防組時代 一

- 大正12年 明治33年7月歌志内市街の全焼。明治44年5月の大山火事等過去の災害が消防組設置の機運を盛り上げ、4月1日歌志内消防組が設置され、初代組頭に辰田清太郎が任命された。
なお、すでに中村、文珠方面に中村青年団、神威方面に自彊青年団が組織され火災時にはこれらが消火に当たっていた。
- 大正14年 8月、私立中村実業消防組設立し、組頭に長谷太二が就任した。
- 大正15年 8月、私立神威消防組設立、組頭に武田重次郎が就任した。
- 昭和3年 5月、フォード1929型ガソリンポンプを購入した。
- 昭和4年 4月、私立中村実業消防組、私立神威消防組が合併し公立神威消防組を設置し初代組頭に桑原福蔵が任命された。
- 昭和6年 神威消防組初代組頭桑原福蔵が辞任し、二代組頭に佐藤督が就任した。
- 昭和7年 神威消防組二代組頭佐藤督が辞任し、三代組頭に長谷太二が就任した。
- 昭和11年 歌志内消防設備委員代表の寄付採納願により歌志内駅前機械置場、火の見櫓、貯水槽2基、ガソリンポンプ等を設置した。
- 昭和12年 神威消防組三代組頭長谷太二が辞任し、四代組頭に高野幸治郎が就任した。
歌志内消防組初代組頭辰田清太郎が辞任し、二代組頭に山田隆義が就任した。
神威消防組消防庁舎（36坪5合）を新築した。
- 昭和13年 4月、従来の消防機械に更に機動力を持たせ防火の万全を期すため、フォード37年型自動車ポンプを購入した。
歌志内消防組、機械器具置場に2馬力サイレン設置した。
- 昭和14年 3月31日、歌志内消防組二代組頭山田隆義と神威消防組四代組頭高野幸治郎が辞任した。

一 警防団時代 一

- 昭和14年 4月1日、勅令を以って警防団が公布され、歌志内警防団（2部、3分団、345名）が発足し、初代警防団長に阿部秀雄が就任にした。
- 昭和15年 自動車の運転と機械操作のため常備消防員2名が任命された。
- 昭和16年 警防団第2部（神威）消防庁舎を新築、サイレンを設置した。
- 昭和17年 警防団第1部（歌志内）消防器具設置場として消防庁舎の上棟式を行った。
- 昭和19年 警防団（歌志内）サイレン塔屋を新設、警報用サイレン10馬力を設置した。
- 昭和20年 初代警防団長阿部秀雄が辞任し、二代警防団長に南川小四郎が就任した。
- 昭和21年 二代警防団長南川小四郎が辞任し、三代警防団長に高野幸治郎が就任した。
- 昭和22年 6月30日、三代警防団長高野幸治郎が辞任した。

一 自治体消防時代 一

- 昭和22年 7月1日、勅令を以って消防団令が公布され、警防団を廃止して歌志内消防団、神威消防団を結成した。歌志内消防団初代団長に五十嵐運吉、神威消防団初代団長に桑原狷介が就任した。
- 昭和23年 12月、歌志内消防団いすゞ1940年式消防ポンプ自動車を購入した。
- 昭和24年 神威消防団初代団長桑原狷介が辞任し、二代団長に前田米蔵が就任した。
- 昭和26年 消防体制強化のため4月1日消防本部を設置し、初代消防長に町助役加藤正雄が就任した。

昭和28年	公立歌志内消防組創立30周年を記念し記念消防演習、記念式典実施、記念誌を発行した。
昭和29年	歌志内消防団初代団長五十嵐運吉が辞任し、二代団長に大橋喜代作が就任した。
昭和30年	歌志内消防団条例が施行され、歌志内、神威消防団を統合、12月1日歌志内消防団を結成し、初代団長に大橋喜代作が就任した。
昭和32年	消防長加藤正雄が退任し、二代消防長に町助役菅原真が就任した。
昭和34年	市勢に対応するため消防署を設置、神威方面を所轄区域にする神威分遣所を設置した。 災害出動功勞、規律厳正、技能熟達等により日本消防協会から歌志内消防団に竿頭綬が授与された。
昭和36年	神威分遣所庁舎、鉄筋コンクリート造り2階建を新築した。
昭和38年	石炭産業界合理化のため解団した北炭消防団の所轄区域維持のため東光一区に分所を設置した。
昭和39年	3月7日、中空知9市町（赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、上砂川町、奈井江町、浦臼町、新十津川町、江部乙町）消防相互応援協定を締結した。
昭和41年	消防力強化のため日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈された。 消防本部庁舎、鉄筋コンクリート造り2階建を新築した。
昭和42年	消防本部並びに消防署設置条例を改正し、神威分遣所を出張所に東光分所を分遣所とし、従来の3係を総務、予防、警防、機械の4係とした。
昭和43年	市立病院配置救急車が消防本部配置となり5月15日より救急業務を開始した。 消防団初代団長大橋喜代作が退任し、二代団長に岡渕秀雄が就任した。
昭和44年	消防団の団結、規律技能優秀により日本消防協会長から表彰旗が授与された。
昭和45年	消防長菅原真が退任し、三代消防長に本部次長兼消防署長鈴木信雄が就任した。
昭和46年	住友歌志内礦閉山に伴い住友消防団第1、3分団が解団し、第2分団は上歌分団として歌志内消防団に編入された。 消防職員待機宿舎3棟12戸を建設した。
昭和48年	歌志内市消防創立50周年を記念し記念消防演習、記念式典実施、記念誌を発行した。 中空知市町等消防相互応援協定を締結した。
昭和50年	12月1日、台風6号及び集中豪雨の水防功勞により消防団に北海道知事から表彰状が授与された。
昭和51年	1月1日、大雨災害水防功勞により北海道消防協会長から歌志内消防団に竿頭綬が授与された。 1月6日、大雨災害水防功勞により全国消防長会長から歌志内市消防本部に表彰状が授与された。 11月1日、所轄区域の人口激減のため東光分遣所廃止、12月5日団員の転勤等により分団運営困難なため上歌分団が解団した。 11月5日、大雨災害水防功勞により日本顕彰会から歌志内消防団に表彰状が授与された。
昭和52年	消防長鈴木信雄が退任し、四代消防長に市助役森永大が就任した。
昭和54年	消防吏員待機宿舎（一棟4戸）を新築した。
昭和55年	消防長森永大が退任し、五代消防長に市助役池田鉄雄が就任した。
昭和56年	12月29日、消防本部の組織等に関する規則を一部改正し総務、予防、警防、機械係を総務、予防、保安、警防の4係とした。

昭和57年	大雨災害水防功勞により北海道消防協会長から歌志内消防団に竿頭綬が授与された。
昭和60年	消防長池田鉄雄が退任し、六代消防長に市助役河原敬が就任した。
昭和62年	消防長河原敬が退任し、七代消防長に消防本部次長兼消防署長黒田豊が就任した。
昭和63年	歌志内市名誉消防団員規程を制定した。 歌志内市婦人防火クラブ設立。 消防力強化のため日本損害保険協会より、水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈された。 大雨災害水防功勞により北海道消防協会長から、歌志内市消防団に竿頭綬が授与された。
平成元年	4月1日、消防本部並びに消防署の組織に関する規則を一部改正し総務、予防、保安、警防係を総務、予防、保安、警防、救急、消防団係の6係とした。 一般社団法人日本自動車工業会より、救急自動車1台寄贈された。
平成2年	規律・訓練・技能優秀により北海道知事から、歌志内市消防団に竿頭綬が授与された。
平成3年	2月13日、北海道広域消防相互応援協定が締結された。 3月31日、中空知市町等消防相互応援協定が廃止された。 消防団二代団長岡淵秀雄が退任し、三代団長に永田壽太が就任した。 コミュニティ助成事業（自主防災組織育成助成事業）により、歌志内市婦人防火クラブ員の制服等を整備した。
平成4年	歌志内市婦人防火クラブ活動資器材として、日本消防協会より軽可搬消防ポンプ1台寄贈された。 独居高齢者等災害弱者の突発的な事態発生時に、迅速な救急・救助体制を図るため災害弱者緊急通報システム「ふれあいネットワーク」の運用を開始した。
平成5年	優良消防団体として北海道消防協会長から第45回北海道消防大会席上において歌志内市婦人防火クラブに表彰状が授与された。 歌志内市消防創立70周年を記念し記念消防演習、記念式典実施、記念誌を発行した。
平成6年	6月1日、高齢者など災害弱者に対する防火指導や火災予防のPR活動を強化するため、女性消防団員5名を採用した。
平成9年	6月1日、歌志内市開基100年記念消防演習を実施した。 ふるさと消防団活性化事業により歌志内市消防団の訓練用資機材を整備した。
平成10年	消防長黒田豊が退任し、八代消防長に消防本部次長兼消防署長菊池剛が就任した。 消防団の地域防火思想の普及、災害防ぎょ活動の功績により北海道知事から表彰旗が授与された。
平成12年	2月22日、応急処置の充実、救命率のアップを図ることを目的とし高規格救急自動車及び高度救命処置用資機材を整備した。 消防団三代団長永田壽太が退任し、四代団長に亀谷三男が就任した。 5月1日、救急救命士による救急業務の運用を開始。
平成13年	防火思想の普及、災害防ぎょ活動の功績により消防庁長官から歌志内市消防本部及び歌志内市消防団に竿頭綬が授与された。
平成14年	6月、トヨタランドクルーザープラド2002年式消防指令車を購入した。
平成15年	消防長菊池剛が退任し、九代消防長に消防署長澤田季孝が就任した。 7月24日、歌志内市消防団北海道消防操法訓練大会（小型ポンプの部）優勝。
平成16年	歌志内市消防署神威出張所を歌志内市消防署神威分遣所に機構改革した。 火災統計資料の明確な昭和23年以降初めて、年間無火災記録を達成。
平成17年	携帯電話からの119番通報直接受信運用開始。

- 平成18年 防火思想の普及、消防施設の整備、災害防ぎょ対策の功績により消防庁長官から歌志内市消防本部及び歌志内市消防団に表彰旗が授与された。
- 5月14日、歌志内市防火管理者連絡協議会、歌志内市危険物安全協会が統合し、歌志内市防火安全協会が設立された。
- 歌志内市消防署組織の機構改革に基づき、歌志内市消防署神威分遣所を廃止し、歌志内市消防団神威分団詰所を設置。
- 歌志内市消防団神威分団詰所の無人化に伴い、歌志内市消防本部にサイレン吹鳴遠隔装置を設置。
- 平成19年 4月1日、歌志内市行政機構全体の見直しに伴い、消防本部並びに消防署の組織等に関する規則を一部改正し係制からグループ制とした。
- 5月1日、歌志内分団、神威分団を第1分団、第2分団と改めた。これに伴い、歌志内市消防団神威分団詰所を歌志内市消防団第2分団詰所とした。
- 気象観測装置の老朽化等により一部観測ができなくなったため、7月20日、「空知産炭地域整備事業助成金」を活用し、新たに気象観測装置を整備し、8月1日より運用開始した。
- 10月1日、消防本部並びに消防署の組織等に関する規則を一部改正し、総務・消防団グループ、予防・保安グループ、警防・救急グループの3グループとした。
- 「民間防火組織等の防火・防災普及啓発推進助成事業」及び「女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業」により、歌志内市婦人防火クラブ員のスラックス、軽可搬ポンプ、防火広報用資器材等を整備した。
- 「住宅用火災警報器設置促進活動等支援助成金」により、パネル、住宅用火災警報器を整備した。
- 平成20年 消防団四代団長亀谷三男が退任し、五代団長に相原稔が就任した。
- 平成21年 住宅用火災警報器の普及促進に係る事業実施に伴い「地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金制度」により、市内単身高齢者宅に住宅用火災警報器の設置促進を図った。
- 消防長澤田季孝が退任し、十代消防長に主幹（総務・消防団グループ担当）西丸強が就任した。
- 平成23年 3月3日、一般社団法人日本自動車工業会より寄贈された救急自動車を高規格救急自動車に更新し、高規格救急自動車を2台体制とした。
- 3月25日、東日本大震災緊急消防援助隊北海道隊第5次派遣隊として、宮城県石巻市に職員3名を派遣した。
- 10月13日、歌志内市字本町1027番地55の旧ショッピングセンター、鉄骨・鉄筋コンクリート造地下1階付平屋建を改修し、新消防本部庁舎として運用を開始した。
- 10月26日、東日本大震災による緊急消防援助隊派遣により全国消防長会会長から消防本部に表彰状が授与された。
- 11月9日、東日本大震災による緊急消防援助隊派遣により総務大臣から消防本部に表彰状が授与された。
- 火災統計資料の明確な昭和23年以降2度目の年間無火災記録を達成。
- 平成24年 3月26日、老朽化した広報車を指揮広報車として更新した。
- 平成25年 2月15日、老朽化した消防3号車を更新した。
- 4月1日、消防救急デジタル無線共通波を整備し、運用を開始した。
- 11月29日、老朽化した消防5号車を更新した。
- 平成26年 12月11日、老朽化した搬送車を広報搬送車として更新した。
- 平成27年 11月2日、歌志内市字神威48番地1に鉄筋造平屋建を新築し、新歌志内市消防団第2分団詰所として運用を開始した。
- 12月1日、消防団の教育訓練のため総務省消防庁から救助資機材搭載型消防ポンプ自動車が1台、無償貸付された。

- 平成28年 消防団五代団長相原稔が退任し、六代団長に佐藤哲朗が就任した。
6月1日、消防救急デジタル無線活動波を整備し、運用を開始した。
火災統計資料の明確な昭和23年以降3度目の年間無火災記録を達成。
- 平成29年 10月11日、各部隊の指揮統制並びに、火災予防や各種災害時の広報を目的とし、消防指揮広報車を整備した。
火災統計資料の明確な昭和23年以降4度目の年間無火災記録を達成。
- 平成30年 8月3日、バッテリー型油圧救助資機材を整備した。
歌志内市婦人防火クラブ設立30周年記念式典挙行。
- 令和元年
(平成31年) 3月5日、厳正な規律を保持し熟達した技能を有しかつ平素から消防の使命を達成することが認められ日本消防協会長から歌志内市消防団に表彰旗が授与された。
4月22日、夕張市石炭博物館模擬坑道火災により北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊第4次派遣隊として、夕張市に職員4名を派遣した。
4月26日、夕張市石炭博物館模擬坑道火災により北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊第8次派遣隊として、夕張市に職員4名を派遣した。
4月30日、夕張市石炭博物館模擬坑道火災により北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊第12次派遣隊として、夕張市に職員4名を派遣した。
コミュニティ助成事業（地域防災組織育成助成事業）により、歌志内市婦人防火クラブ員の訓練用水消火器を整備した。
- 令和2年 消防団六代団長佐藤哲朗が退任し、七代団長に荒岡克明が就任した。
10月18日、夕張市消防本部新型コロナウイルス感染症拡大により北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊として夕張市に隊員4名を派遣した。
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、感染防止資機材（車輻除染システム、陰圧式患者搬送用器具）を整備した。
- 令和3年 消防団七代団長荒岡克明が退任し、八代団長に岡崎正美が就任した。
消防長西丸強が退任し、十一代消防長に副市長平間靖人が就任した。
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、感染防止資機材（オゾンガス発生装置、ゲート型除菌システム等）を整備した。
コミュニティ助成事業（地域防災組織育成助成事業）により、歌志内市消防団員用の風水害活動用資機材を整備した。
- 令和4年 1月21日、火災・救急・災害発生時等に、迅速な発生場所の特定を目的とし、消防業務管理システムを整備した。
消防長平間靖人が退任し、十二代消防長に消防本部次長兼消防署長神邦広が就任した。
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、感染防止資機材（空気呼吸器用面体、防火フード、パソコン）を整備した。
9月1日、消防吏員待機宿舎（1棟4戸）を歌志内市役所へ管理移管した。
火災統計資料の明確な昭和23年以降5度目の年間無火災記録を達成。
- 令和5年 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、防火衣・ヘルメットを整備した。
3月22日、老朽化した救急2号車を更新した。
9月24日、歌志内市消防創立100周年を記念し記念消防演習、記念式典実施、記念誌を発行した。

8. 令和5年行事記録表

月 日	行 事 内 容	開 催 地
1. 8	出初式	
19 ~ 23	防火対象物立入検査	
20	エレベーター閉じ込め事故救出教育訓練出席	札幌市
22	一般救急講習会	
24	中空知救急連絡協議会三次検証部会事業研修会出席（ハイブリット開催）	滝川市
27	北海道消防協会空知地方支部第2回総会及び研修会出席	深川市
29	北海道小児救急医療地域研修会出席（Web開催）	
2. 6	一般救急講習会	
15	女性消防吏員の更なる活躍推進に係る管理職員を対象としたオンライン研修会出席（Web開催）	
20 ~ 24	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
21	全道消防救助事例研究会出席	札幌市
”	妊婦の診療に係る医療研修会出席（Web開催）	
27	日高管内3次検証会及び救急事例検討会出席（Web開催）	
3. 1	新型コロナウイルス感染症対策本部会議出席	
7	消防記念日に伴う署出動救助訓練	
8	北海道広域消防相互応援協定訓練研修会出席（Web開催）	
8 ~ 9	防火対象物立入検査	
9	全国消防長会北海道支部道央地区協議会情報懇談会出席	小樽市
13	北海道消防協会空知地方支部中空知分会第3回常任理事会出席	砂川市
”	空知地区林野火災予防消防対策協議会（Web開催）	
15	第92回ドクターヘリ事例検討会出席（Web開催）	
16	第25回中空知合同救急症例検討会出席（Web開催）	
20	特例認定に伴う立入検査	
21	第12回中空知管内3消防本部救急外傷研修会出席	砂川市
22	高規格救急自動車納車式	
23	畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律施行規則等の改正に係る全道説明会出席（Web開催）	
”	歌志内市医療保健対策推進協議会出席	
4. 7	北海道消防協会空知地方支部中空知分会第1回常任理事会及び総会出席	砂川市
19	林野火災空中消火用資機材等操作訓練出席	岩見沢市
19 ~ 27	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
20 ~ 30	春の火災予防運動	
24	第1回中空知救急連絡協議会実務担当者打合せ会議出席（Web開催）	
25	歌志内市婦人防火クラブ定期総会	
”	歌志内市防火安全協会定期総会	
26	全国消防長会北海道支部総会及び一般財団法人全国消防協会北海道地区支部評議委員会出席	札幌市
27 ~ 28	全国消防長会北海道支部道央地区協議会規制事務研修会出席（Web開催）	
28	北海道消防協会空知地方支部第1回総会出席	深川市
5. 12	北海道女性防火クラブ連絡協議会第1回理事会出席	札幌市

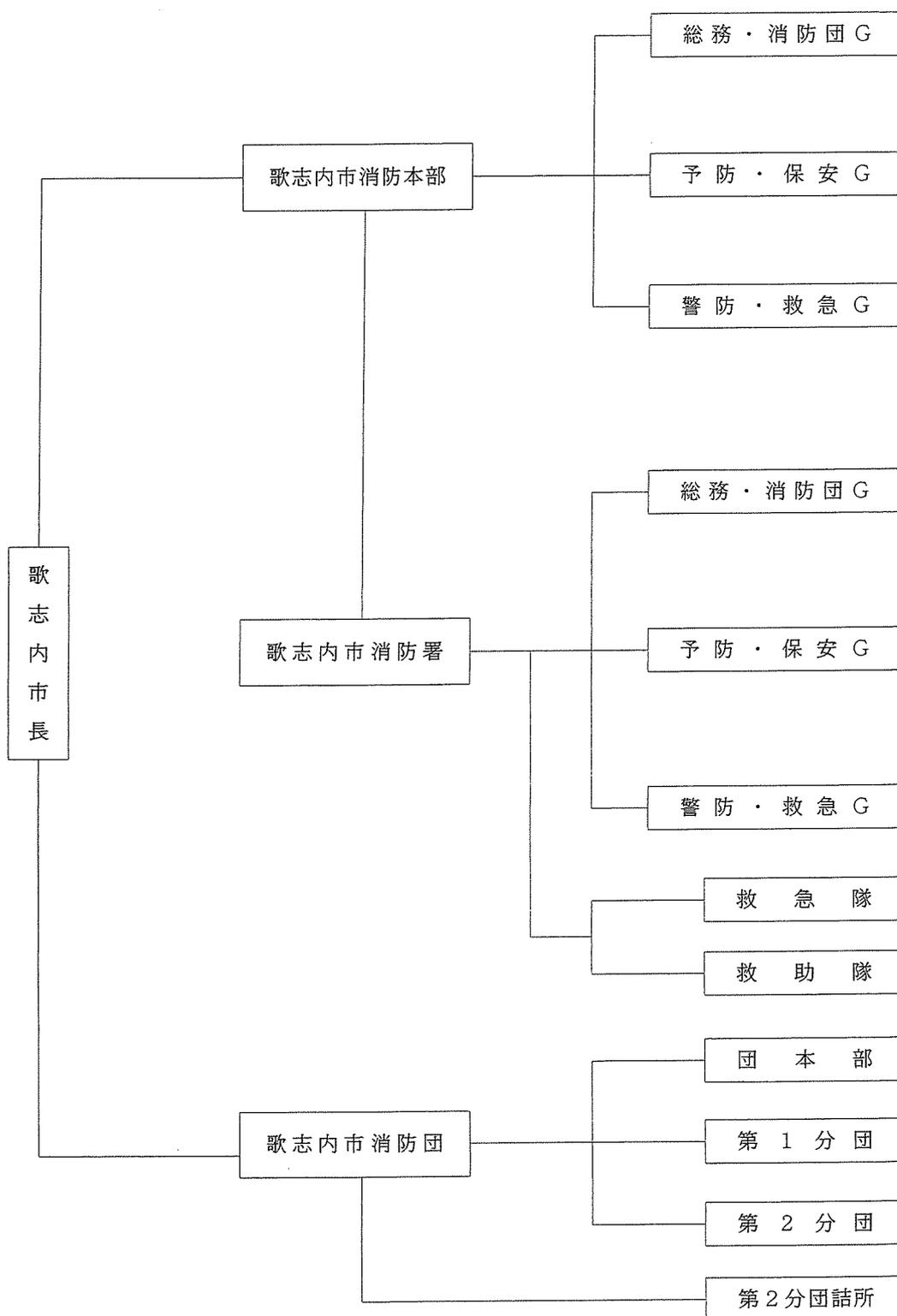
月 日	行 事 内 容	開 催 地
5. 16	岩見沢地区危険物安全協会創立50周年記念式典・祝賀会出席	岩見沢市
"	消防署出動放水救助訓練	
17	第22回日高・空知官内消防本部メディカルコントロール体制連絡調整会議出席	札幌市
17 ~ 24	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
23	全国消防長会北海道支部道央地区協議会第1回総会出席	岩見沢市
25	「救助活動を支援する携帯電話の電波捕捉に関する技術実証」に係る関係者説明会出席 (Web開催)	
"	危険物安全協会連合会通常総会出席	札幌市
26	第34回北海道救急医学会救急隊員部会総会及び救急隊員部会研修会出席	石狩市
6. 8 ~ 20	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
9	栄典事務担当初任者研修会出席	札幌市
25	第69回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習参加	滝川市
29	消防災害補償等事務研究会出席	札幌市
30	北海道消防協会定時評議員会出席	"
7. 11	第93回道央ドクターヘリ事例検討会出席 (Web開催)	
19 ~ 26	防火対象物立入検査	
21	一般救急講習会	
"	北海道消防操法訓練大会出席	江別市
27	全国消防長会北海道支部警防委員会出席	旭川市
"	全国消防長会道支部道央地区協議会消防法令違反是正実務研修会出席 (Web開催)	
28	全国消防長会道支部道央地区協議会消防法令違反是正実務研修会出席	江別市
"	一般救急講習会	
29	一般救急講習会	
8. 1 ~ 25	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
8	第1回全国消防長会北海道支部道央地区協議会住宅用火災警報器設置・維持管理対策連絡会出席	小樽市
24	安全運転管理者講習会	赤平市
9. 1	消防署・消防団合同非常招集訓練	
5	全国消防長会北海道支部消防法令違反是正事例発表会出席	札幌市
8	女性消防団員交流会出席	芦別市
"	一般財団法人北海道危険物安全協会連合会空知ブロック地区連絡協議会出席	赤平市
15	砂川市立病院救急意見交換会出席	砂川市
16	普通救命講習会	
18 ~ 19	第38回危険物保安講習会受講 (Web開催)	
24	歌志内市消防創立100周年記念消防演習・記念式典	
25 ~ 27	防火対象物立入検査	
26	一般財団法人全国消防協会北海道地区支部道央支部消防救助技術向上講習会出席	小樽市
"	南空知管内MC産科研修会出席 (Web開催)	
28	一般救急講習会	
29	北海道女性防火クラブ連絡協議会第2回理事会・定期総会及び全道女性防火クラブ指導者研修会出席	札幌市

月 日	行 事 内 容	開 催 地
10. 1	滝川駐屯地創立68周年・第10即応機動連隊改編4周年記念行事出席	滝川市
3 ~ 25	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
5	全国消防長会北海道支部法制・広報研修会出席	厚岸町
6	北海道消防協会空知地方支部中空知分会正副団長研修会出席	
9	防火座談会	
15	防火パレード	
15 ~ 31	秋の火災予防運動	
19	第75回北海道消防大会出席	音更町
20	消防用設備等実務講習会出席	札幌市
21	歌志内市防火安全協会視察研修出席	白老町
24	日高管内救急講演会出席 (Web開催)	
26	歌志内市婦人防火クラブ視察研修出席	白老町
29 ~ 30	市民芸術文化祭出席	
30	消防署出動放水救助訓練	
11. 1	全国消防長会北海道支部署長研修会出席	北見市
2	第1回全国消防長会北海道支部道央地区協議会違反是正推進連絡会出席	小樽市
4	第10回歌志内市防火安全協会グランドゴルフ大会	
5	第13回中空知管内3消防本部救急外傷研修会出席	砂川市
6	空知・日高圏気管挿管再認定講習会受講	栗山町
〃	空知総合振興局雪害対策連絡協議会議出席 (Web開催)	
11	第47回北海道救急医学会学術集会出席	札幌市
13	防火座談会	
14	北海道消防協会空知地方支部第2回役員会出席	沼田町
15 ~ 17	酸欠・硫化水素危険作業主任者技能講習受講	旭川市
16	一般財団法人北海道危険物安全協会連合会第3回理事会出席	札幌市
17	全国消防長会北海道支部道央地区協議会第2回総会及び第50回全道消防職員意見発表大会道央地区予選会出席	千歳市
20 ~ 21	防火対象物及び危険物製造所等立入検査	
21	ハラスメント等相談窓口の相談受付員等を対象としたオンライン研修会出席 (Web開催)	
〃	消防の広域化等に関する北海道ブロック説明会出席	札幌市
22	第94回道央ドクターヘリ事例検討会出席 (Web開催)	
28	北海道消防協会空知地方支部中空知分会第2回常任理事会出席	浦臼町
30	一般財団法人全国消防協会北海道地区支部道央支部特別研修会出席	小樽市
12. 6	普通救命講習会	
14 ~ 18	防火対象物立入検査	
21	普通救命講習会	
25 ~ 31	歳末特別警戒	
26	中空知救急連絡協議会担当者会議出席 (Web開催)	
29	消防団歳末警戒	

消 防 力 の 現 勢

1. 消防組織

(1) 消防機構



(2) 消防職員階級別表

階級 区分	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
定員	階級別定員なし						27
実員	1	4	5	4	1	7	22

(3) 消防職員配置表

() 兼務者

階級 所 属		司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
歌 志 内 市 消 防 本 部	消 防 長	1						1
	次 長		1					1
	主 幹		3					3
	総務・消防団 G			2	1	1		4
	予防・保安 G			2				2
	警防・救急 G			1	3			4
	計	1	4	5	4	1	0	15
歌 志 内 市 消 防 署	署 長		(1)					(1) 0
	主 幹		(3)					(3) 0
	総務・消防団 G			(2)	(1)	(1)	2	(4) 2
	予防・保安 G			(2)			3	(2) 3
	警防・救急 G			(1)	(3)		2	(4) 2
	計	0	(4)	(5) 0	(4) 0	(1) 0	7	(14) 7
合 計		1	(4) 4	(5) 5	(4) 4	(1) 1	7	(14) 22

(4) 消防職員年齢別表

階級 年 齡	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
20歳未満							0
20～25						7	7
26～30					1		1
31～35				2			2
36～40			2	1			3
41～45		1	3				4
46～50		3					3
51～55							0
56歳以上	1			1			2
合 計	1	4	5	4	1	7	22
平均年齢	59.0	48.0	41.2	39.8	26.0	22.6	36.4

(5) 消防職員勤続年数表

階級 年 数	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
5年未満				1	1	5	7
5～10				1		2	3
11～15				2			2
16～20			2				2
21～25		1	3				4
26～30		2					2
31年以上	1	1					2
合 計	1	4	5	4	1	7	22
平均勤続年数	40.0	27.8	20.8	9.0	3.0	3.3	14.4

(6) 消防職員教養訓練状況 (既往5ヵ年)

科 目	年 別 教 育					合 計	
	R 1 年 (H 3 1 年)	R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年		
北 海 道 消 防 学 校	初 任 教 育	1	2	3			6
	警 防 科				1		1
	救 急 科	2		1	2	2	7
	救 助 科					1	1
	ビテオ硬性挿管用喉頭鏡 気管挿管認定講習				1		1
	火 災 調 査 科						0
	予 防 査 察 科	1				1	2
	幹 部 科	1			1	1	3
	気管挿管再認定講習	2	1	2	1	2	8
	合 計	7	3	4	6	7	27

(7) 消防職員技能資格調

資格の別	階 級	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
自 動 車 運 転 免 許	大 型 型			1		1		2
	中 型 型	1	4	4	4			13
	準中型 (7.5t未満)						7	7
	大 型 特 殊			1				1
	小型車両系建設機械		3					3
安 全 運 転 管 理 者			1					1
ボイラー技士2級				1				1
第2級陸上特殊無線技士			1					1
第3級陸上特殊無線技士			1	3		1	5	10
危険物取扱者 乙種		1	2	2	2			7
消防設備士 乙種		1		1	1			3
第二種電気工事士					1			1
救急救命士			1	2	2	1	1	7
救急隊員資格取得者		1	3	3	2		6	14
酸素欠乏危険作業主任者			4	4	1			9
硫化水素危険作業主任者			1	4	1			6
伐木作業				1				1
足場の組立て等作業主任者				2				2
防 災 士			1	1	2			4
潜 水 士					1			1
検定簿記1級				1			1	2
検定簿記2級			1	1	1			3
検定簿記3級			1	1				2

(8) 消防団員定員実員状況

階 級 分団名		団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
団 本 部	定 員	1	2	1	1	1	2	7	15
	実 員	1	2		1	1	2	4	11
第1分団	定 員			1	1	3	6	12	23
	実 員			1	1	3	6	11	22
第2分団	定 員			1	1	3	6	11	22
	実 員			1	1	3	3	4	12
合 計	定 員	1	2	3	3	7	14	30	60
	実 員	1	2	2	3	7	11	19	45

(9) 消防団員勤続年数表

階 級 年 数		団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
1 年 未 満									0
1 ~ 5							3	12	15
6 ~ 10							2	3	5
11 ~ 15						3	4	3	10
16 ~ 20								1	1
21 ~ 25				1	1	1	1		4
26 ~ 30						3	1		4
31 ~ 35				1					1
36 ~ 40		1	2		1				4
41 年 以 上					1				1
合 計		1	2	2	3	7	11	19	45
平均勤続年数		39.0	37.5	27.0	34.3	20.4	11.7	5.8	14.5

(10) 消防団員年齢別表

階 級 年 齡	階 級							合 計
	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	
20 歳 未 満								0
20 ~ 25							2	2
26 ~ 30								0
31 ~ 35							1	1
36 ~ 40						3	3	6
41 ~ 45			1			2	2	5
46 ~ 50				1	3	4	2	10
51 ~ 55					2		3	5
56 ~ 60							2	2
61 歳 以 上	1	2	1	2	2	2	4	14
合 計	1	2	2	3	7	11	19	45
平 均 年 齡	73.0	73.5	53.5	60.7	55.7	47.9	47.4	51.7

(11) 消防団員任免状況

区 分	分 団 名	分 団 名			合 計
		団 本 部	第 1 分 団	第 2 分 団	
実 員		11	22	12	45
任 免	採 用		2		2
	退 職		1	2	3
	昇 任		1		1
	異 動				0

2. 消防施設

(1) 消防機械

① 消防車両現勢一覧表

区分 所属	車両種別	車両名称	メーカー	型式	年式	エンジン		ボ 製 作 所	ポン プ		放水 量 (ℓ/分)	水 槽 (ℓ)	登 録 番 号	全 長 (m)	全 幅 (m)	全 高 (m)	定 員 (名)	経 過 年 数
						気 筒 数	総 排 気 量 (CC)		形 式	級 別								
消 防	タンク車	3号車	日野	SDG-CX7JGAA改	2013	5	6,400	日本機械	R3	A2	2,232	1,500	札幌801ま	7.23	2.30	2.95	6	10
	タンク車	5号車	日野	SDG-CX7JGAA	2013	5	6,400	吉谷機械	F5	A2	2,244	2,500	札幌801な	7.27	2.30	2.95	5	10
消 防	高規格救急車	救急1号車	トヨタ	3BF-TRH226S	2023	6	2,690						札幌800た	5.64	1.89	2.50	7	0
	高規格救急車	救急2号車	日産	CBF-FPWGE50改	2011	6	3,490						札幌800そ	5.64	1.90	2.47	7	12
署	指令車	指令車	トヨタ	GF-RZJ95W	2002	4	2,690						札幌830め	4.70	1.82	2.19	5	21
	指揮広報車	指揮広報車	トヨタ	CBA-GSJ15W	2017	6	3,950						札幌830ぬ	4.63	1.90	2.10	5	6
消 防	指揮広報車	1号車	トヨタ	CBF-TRH226K	2012	4	2,690						札幌800そ	5.38	1.88	2.47	9	11
	ポンプ車	2号車	三菱	KC-FG538D	1996	4	4,560	日本機械	R3	A2	2,200		札幌88と	5.58	1.89	2.67	10	27
団	ポンプ車 (無償貸付車両)	6号車	いすゞ	TKG-NMS85AN	2015	4	2,990	モリタ	ME-5	A2	2,000		札幌831た	5.55	1.90	2.42	6	8
	広報搬送車	7号車	トヨタ	CBF-TRH228B	2014	4	2,690						札幌800み	5.38	1.88	2.45	10	9

③ 特殊器具等一覧表 (車載分含)
保安機器

品名	数量	備考
デジタルレーザー距離計	1	
可燃性ガス検知器	1	
炭化深度計	3	
騒音計	1	
超音波厚さ計	1	

救急資器材

品名	数量	備考
自動体外式除細動器	3	AEDPro 1、ZOLL x serise 2
自動心マッサージ器	2	ルカスII 1、ルカスIII 1
血圧計	4	携帯 2、デジタル 2
輸液セット	2	留置針・駆血帯・輸液
血糖値測定器	2	ニプロスットストリップ XP3
気道確保用資器材	3	LM、LT、気管挿管チューブ
吸引器	2	レダグ ルサクションユニット LSU 4000 1、tote CUBE-vac 1
喉頭鏡セット	6	喉頭鏡 4、ビデオ喉頭鏡 2
携帯血中酸素飽和度測定器	3	マシRad57 1、NISSEI plusfit B0-650 2
オゾン殺菌装置	3	オゾン水生成器 1、オゾン発生器 2
車輦除染システム	2	BT-03
全身固定用資器材	4	バックボート 2、レスキューボート 2
感染防止用患者搬送器具	1	エアロリカバ-
陰圧式患者搬送用器具	1	NGF-03-II型
陰圧式固定具	2	FERNO AS190-10

救助器具

品名	数量	備考	
エアーカータ-	1		
エアソー-	1		
可搬式ウインチ	1		
救助マット	1		
バスケットストレッチャー	1		
マット式空気ジャッキ	1		
ロープレスキュー資機材	1		
フローティングローブ	1		
ゴムボート	2	8人用、6人用	
レシプロソー	1		
油圧救助資機材型	スプレッダー	1	フェンセット
	カッター	1	
	ラムシリンダー	1	固定器具付
充電電池電動式油圧コンピツール	1	コードレス	

その他

品名	数量	備考
マルチ型ガス検知器	2	XP-302M-A-3
防護服	10	
切創防止用保護衣	5	チャップスIIファンクショナル
バルーン型投光器	1	
救命胴衣	51	
救命浮環	12	
泡消火原液	250ℓ	合成界面活性剤(90ℓ)・水成膜泡消火薬剤(160ℓ)
クラスA泡消火薬剤	40ℓ	
油処理剤	76ℓ	スノラップ(22ℓ)、シガリン(54ℓ)
油吸着マット	154枚	BL65L(54枚)、BL50(100枚)
油・液体吸着剤	68kg	ACライト(50kg)、オイルゲーター(18kg)
組立水槽	2	
チェンソー	10	エンジン仕様 9、AC100V仕様 1
サーモグラフィ-	1	GTC400C
土のう	5, 461枚	本部 3, 291枚、分団詰所 2, 170枚
大型土のう	30枚	トンパック
発電機	7	
拡声器	9	

(2) 消防無線

呼出名称	種別	常置場所	周波数			送信出力	開局年月日	備考
			1統 制 3波	1主 運用 7波	活 動 波			
うたしょう	基地局	歌志内市役所	○	—	—	20W	H25. 3. 22	
〃	〃	〃	—	—	○	〃	H28. 1. 6	
うたしょう 11	陸上移動局	歌志内市消防本部	○	○	○	10W	H25. 2. 26	
〃 12	〃	〃	○	○	○	〃	H28. 1. 6	
〃 1	〃	〃	○	○	○	〃	H25. 2. 26	
〃 2	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 3	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 5	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 6	〃	歌志内市消防団 第2分団詰所	○	○	○	〃	〃	
〃 7	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 きゅうきゅう1	〃	歌志内市消防本部	○	○	○	〃	〃	
〃 きゅうきゅう2	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 しれい	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 しき	〃	〃	○	○	○	〃	H29. 9. 19	
うたしょう 13	〃	〃	○	○	○	5W	H25. 2. 26	
〃 14	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 15	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 16	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 17	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 18	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 19	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 20	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 21	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 22	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 23	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 24	〃	〃	○	○	○	〃	H28. 1. 6	
〃 25	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 26	〃	〃	○	○	○	〃	〃	
〃 27	〃	歌志内市消防団 第2分団詰所	○	○	○	〃	〃	
〃 28	〃	〃	○	○	○	〃	〃	

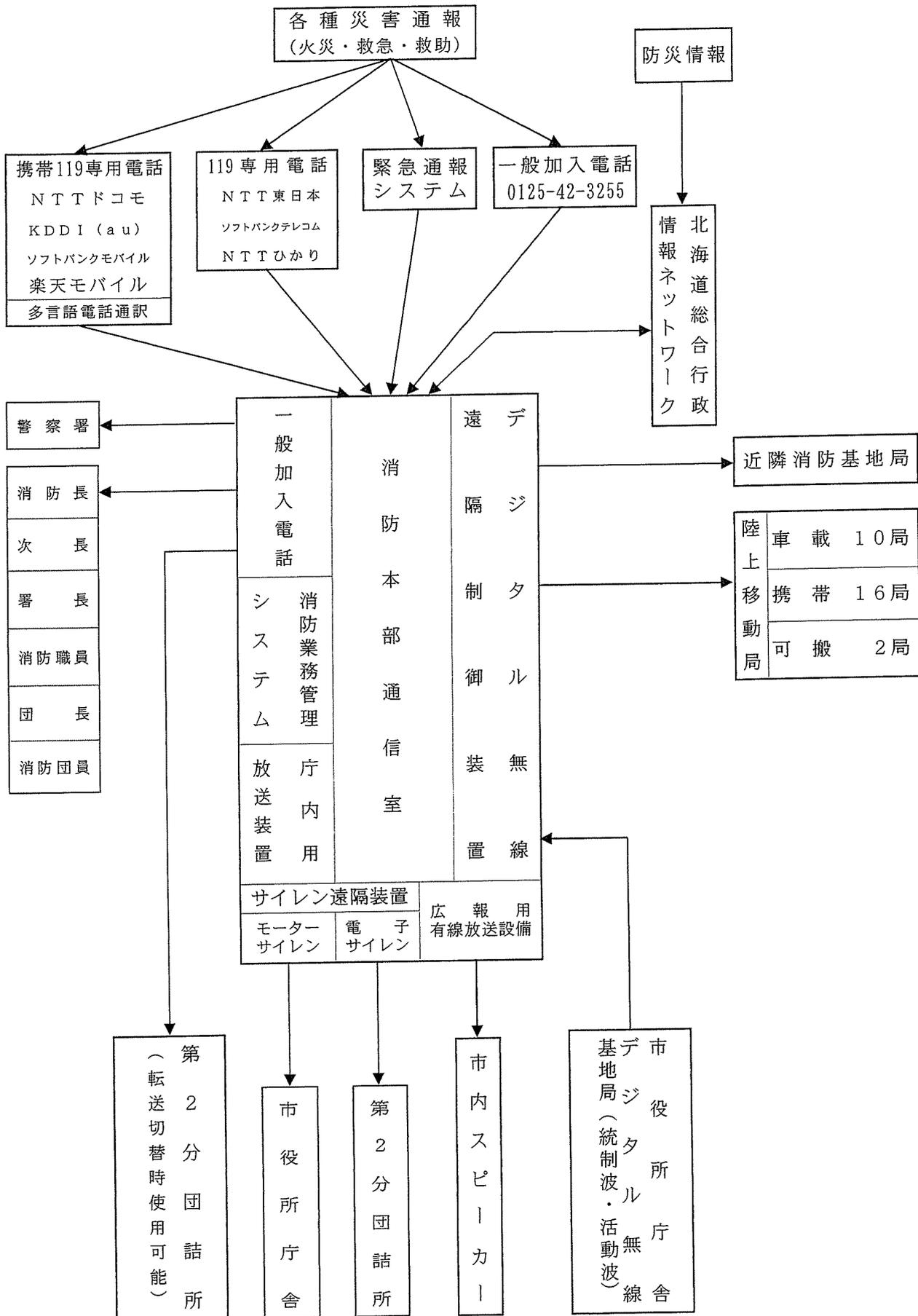
(3) 水利現勢

種 別 地区別		防 火 水 槽			地上式消火栓
		40 m ³ ~ 100 m ³ 未満	20 m ³ ~ 40 m ³ 未満	計	公 設
消 防 署	歌志内地区	20	8	28	0
	神威地区	32	3	35	1
合 計		52	11	63	1

(4) 消防庁舎

名 称	所 在 地	構 造	建築面積	延べ面積	主 要 施 設	竣 工 年 月 日
本 部 消 防 署	本町 1027番地55	鉄骨・鉄筋コンクリート造 地下1階付平屋建	1,134.00m ²	1,368.63m ²	気象観測施設 サイレン吹鳴遠隔装置 出動表示灯 自家発電設備 自動火災報知設備 排気ガス排出装置 ホース洗浄機 ホース乾燥機 有線放送設備	平成23年10月13日
第2分団 詰 所	神威48番地1	鉄筋造 平屋建	214.17m ²	212.77m ²	自家発電設備 断熱オーバースライター 地中蓄熱式床暖房設備 ハリアフリー構造 有線放送設備	平成27年11月2日

(5) 通信施設系統図



(6) 通信・気象観測施設

種別	名 称	数	摘 要
電 話	1 1 9 番 専 用 電 話	8	本部通信室に設置 (NTT 2、NTTひかり 2、ソフトバンク 2、携帯電話直接受信 2)
	一 般 加 入 電 話	4	本部 3 分団詰所 1 (転送切替時使用可能)
	緊 急 通 報 シ ス テ ム 「ふれあいネットワーク」	1	NTT SR10-VI 一式 本部通信室に設置 (2回線・端末53台)
	フ ァ ク シ ミ リ	2	本 部 F A X 番 号 0125-42-5210 分団詰所 F A X 番 号 0125-42-3119
	メ ー ル ア ド レ ス	2	LGWAN shobo.soumu@city.utashinai.lg.jp E-mail shobo.soumu@city.utashinai.hokkaido.jp
	北 海 道 総 合 行 政 情 報 ネットワーク	1	本部通信室に設置
消 防 無 線	デ ジ タ ル 無 線	30	基 地 局 (統制波3波・活動波1波) 20W 2局 車載型 (統制波3波・主運用波7波) 10W 10局 陸 上 携 帯 型 (統制波3波・主運用波7波) 5W 16局 移 動 局 可搬型 (統制波3波・主運用波7波) 10W 2局
	簡 易 無 線 電 話 { スタンダード社製 FTH-308 スピーカーマイク MH-73A4B } }	23	送受信周波数 12.5KHZ スナップ 消防団班長以上貸与 (団本部除く)
放 送	庁 内 用 放 送 装 置	1	本 部 (240W)
	広 報 用 有 線 放 送 設 備	2	本 部 (120W×3) 分団詰所 (120W×4)
信 号 装 置	サイレン遠隔装置	2	本部通信室に設置
	モ ー タ ー サ イ レ ン	1	出 力 (10馬力・自動吹鳴機付) 市役所屋上に設置
	電 子 サ イ レ ン	1	広報用有線放送設備により拡声 (市内一円) 分団詰所前に設置 (増設アンプ)
気 象 装 置	気象観測データ監視システム (ウェザーステーションOTW-2006)	1	本部通信室に設置 (温度計、湿度計、気圧計、風向風速計、雨量計) デスクトップPC一括表示
そ の 他	消 防 業 務 管 理 シ ス テ ム	1	本部通信室に設置 地理情報システム (水利表示・防災マップ表示・図面作成) ゼンリン地図検索 災害弱者・高齢者家庭・緊急通報利用者情報 デスクトップPC一括表示

(7) 緊急通報システム

① ふれあいネットワーク（消防センター）

名 称	数	摘 要	※平成4年10月1日運用開始
加入回線 INSネット64 (NTT回線)	1回線	緊急通報受信及び様態確認、協力員等発信回線 デジタル通話路2CHダイヤルアップルーター(Ipmate 1600RD)	
	1回線	相談通報転送用回線	
受信装置	1台	NTT SR10-VI3.0 通報蓄積 最新の99件 自動発着信接続方式 通信制御機能	
表示処理装置	一式	コンピューター本体 (LCD-AD192SEDSW 2.2GHz メモリ:16GB) HDD:500GB OS:Windows 10 Enterprise 2016 LTSC 最大処理端末機器 (20,000端子)	
	1台	モニター (TFT19型スクエア LED/ADSパネル/非光沢パネル)	
	1台	プリンター (EPSON LP-S180D)	

② 発信種別通報

種 別	月 別												合 計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
緊急ボタン	2	1	2		1		1			1			8
手元ボタン													0
ペンダント											1		1
火災センサー													0
ガスセンサー				1	1			6		1			9
その他(停復電合)	2		2		3	2				2	6	2	19
相談ボタン								1					1
合 計	4	1	4	1	5	2	1	7	0	4	7	2	38

③ 処理別回数

種 別	月 別												合 計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
救急車出場	2	1	2		1		1	1		1			9
消防車出動								1					1
出向調査					2			1		1	2		6
協力員要請						1							1
合 計	2	1	2	0	3	1	1	3	0	2	2	0	17

火災と救急・救助

1. 火災概況

年		令和5年		令和4年	
区 分		内 訳	合 計	内 訳	合 計
火災件数	建物火災	1 件	1 件	0 件	0 件
	林野火災	0 件		0 件	
	車両火災	0 件		0 件	
	その他火災	0 件		0 件	
焼損面積	全 焼	0 m ²	1 (2) m ²	0 m ²	0 m ²
	半 焼	0 m ²		0 m ²	
	部 分 焼	1 (2) m ²		0 m ²	
	ぼ や	0 m ²		0 m ²	
	車 両	0 台	0 台	0 台	0 台
	林 野	0 a	0 a	0 a	0 a
損害見積額	建 物	794千円	803千円	0千円	0千円
	収 容 物	9千円		0千円	
	車 両	0千円		0千円	
	そ の 他	0千円		0千円	
	火災1件当 (千円未満四捨五入)	803千円	/	0千円	/
	市民1人当 (小数点以下四捨五入)	301 円		0円	
	1世帯当 (小数点以下四捨五入)	485 円		0円	
焼損棟数	全 焼	0 棟	1 棟	0 棟	0 棟
	半 焼	0 棟		0 棟	
	部 分 焼	1 棟		0 棟	
	ぼ や	0 棟		0 棟	
罹災世帯数	全 損	0世帯	1世帯	0世帯	0世帯
	半 損	0世帯		0世帯	
	小 損	1世帯		0世帯	
罹災人員	全 損	0 人	2 人	0 人	0 人
	半 損	0 人		0 人	
	小 損	2 人		0 人	
死傷者数	死 者	0 人	0 人	0 人	0 人
	負 傷 者	0 人		0 人	

※焼損面積の()は表面積

※令和5年12月末人口2,668人、世帯数1,654世帯

(1) 令和5年火災記録 (出火率3.7)

番号	出火月日	覚知時刻	覚知方法	出火場所	用途	焼損程度	焼損面積 (㎡)		損害見積額 (千円)			焼損棟数			罹災世帯数			罹災者数	死者数	負傷者数	出火原因	気象状況				
							床	表	建物	収容物	車両	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	全損					半損	小損	天気	風向	風速 (m/s)
1	2月10日	16:41	119	歌神46番地1	共同住宅	部分焼	1	2	794	9	803	1			1	2				不明	雪	西	0.8	80.4	-5.0	

※ 出火率 (人口10,000人当たりの出火率) = 出火件数 ÷ 人口 × 10,000人

※ 令和5年12月末人口 2,668人

(2) 既往10ヵ年月別火災発生状況

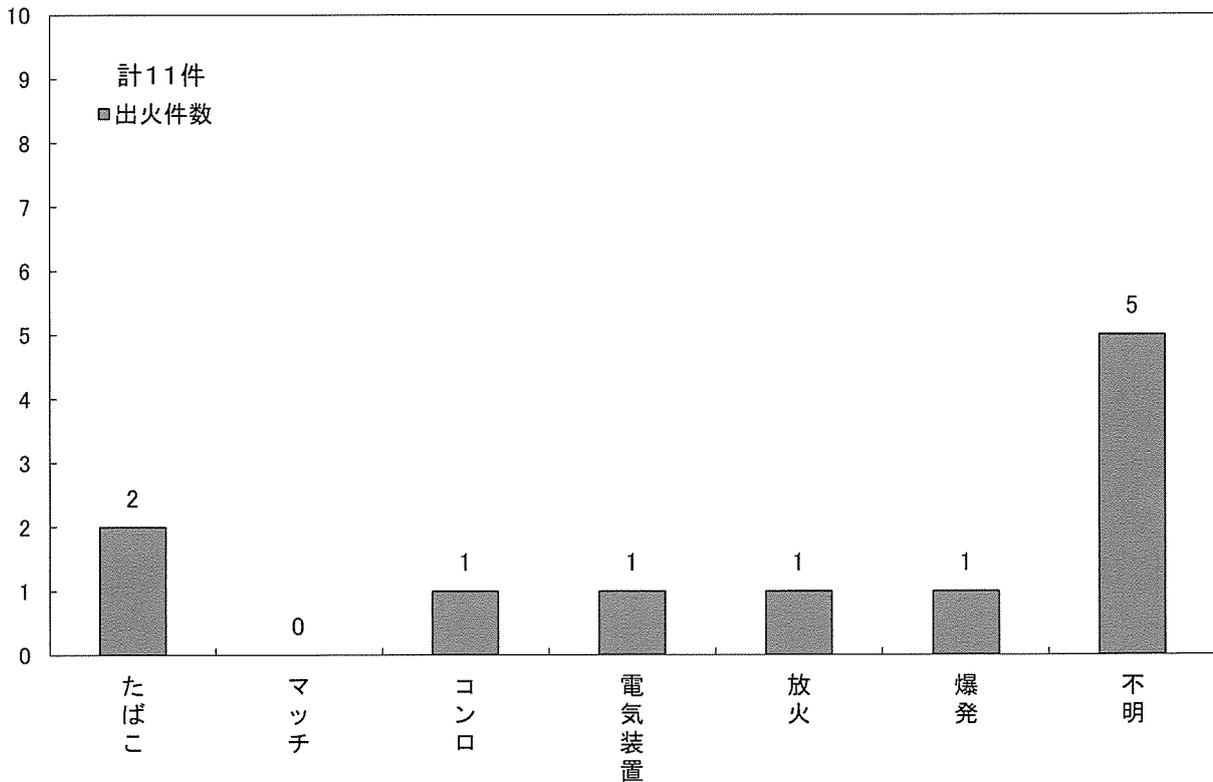
年 別	種 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成26年	建 物 火 災	1												1
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
平成27年	建 物 火 災								1		1			2
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
平成28年	建 物 火 災													0
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
平成29年	建 物 火 災													0
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
平成30年	建 物 火 災								1					1
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
令和元年 (平成31年)	建 物 火 災		1			1								2
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
令和2年	建 物 火 災	1			1								1	3
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
令和3年	建 物 火 災	1												1
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
令和4年	建 物 火 災													0
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
令和5年	建 物 火 災		1											1
	林 野 火 災													0
	車 両 火 災													0
	そ の 他 火 災													0
合 計		3	2	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1	11

(3) 既往10ヵ年火災状況

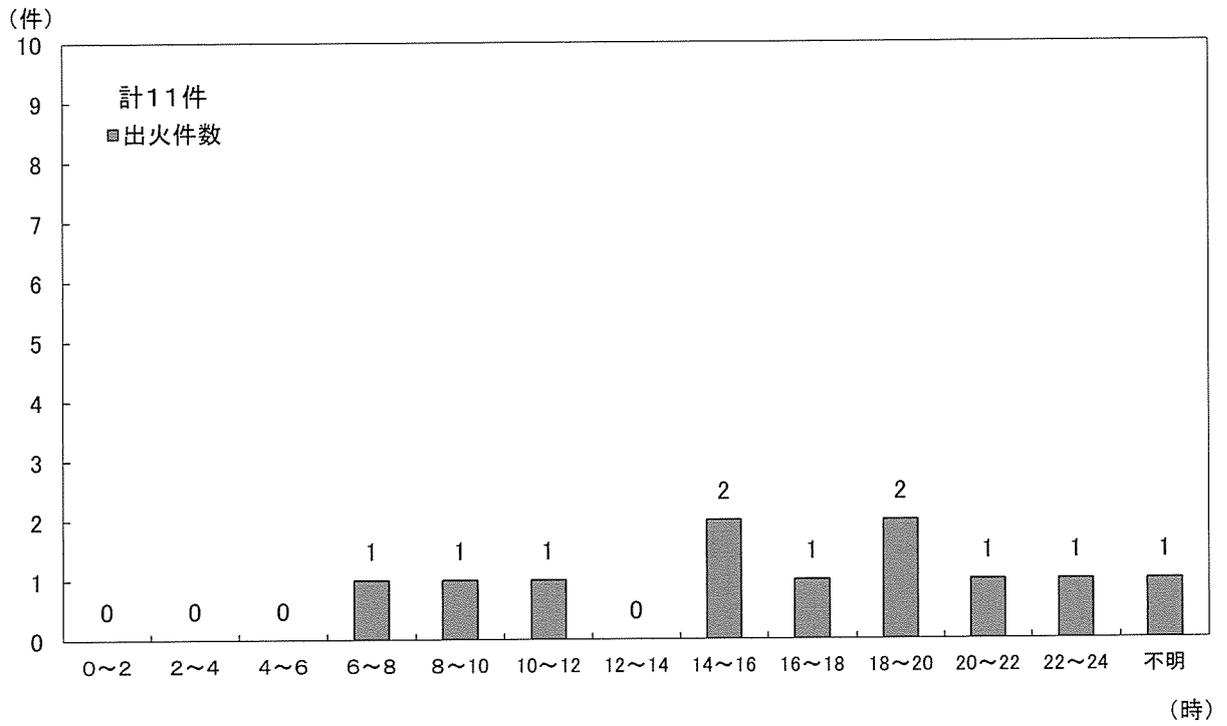
年	火災種別					焼損状況				損害額 (千円)	死者	負傷者
	建物	林野	車両	その他	計	床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	台	アール (a)			
平成26年	1				1	7	105			554		1
平成27年	2				2	134	49			11,987		
平成28年					0							
平成29年					0							
平成30年	1				1					1		
令和元年 (平成31年)	2				2	269	2			3,495		
令和2年	3				3	60	308			6,966		
令和3年	1				1					674		
令和4年					0							
令和5年	1				1	1	2			803		
合計	11	0	0	0	11	471	466	0	0	24,480	0	1

(4) 既往10ヵ年原因別出火件数

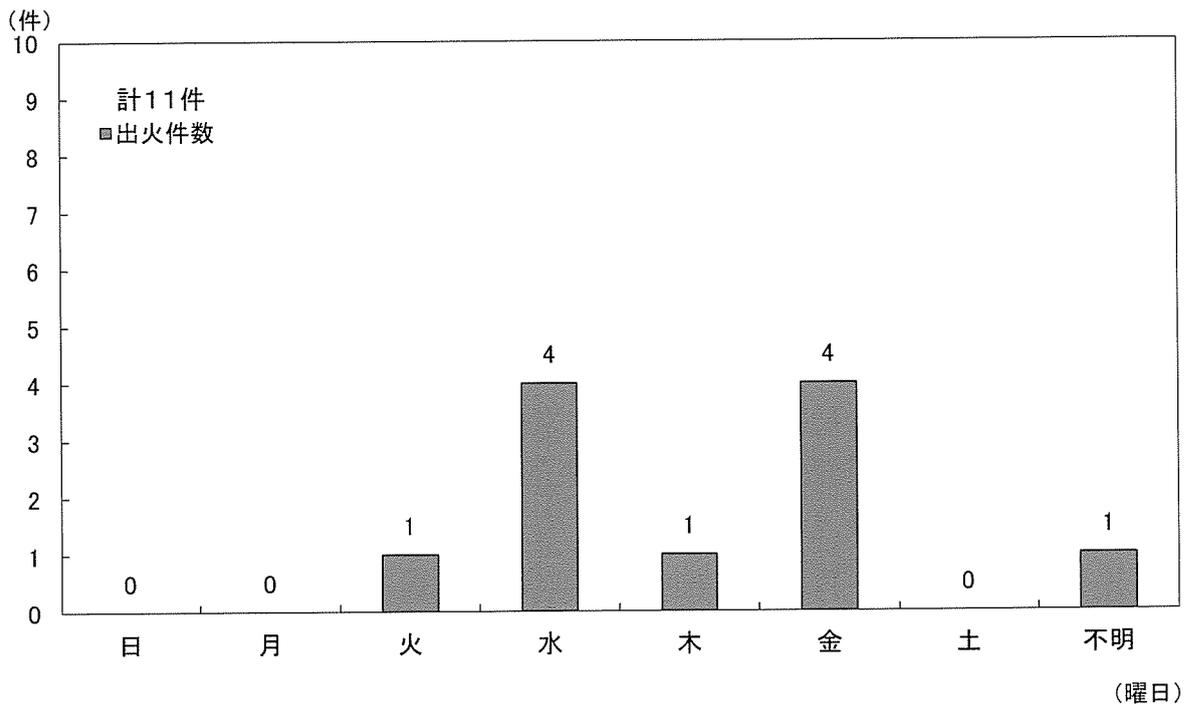
(件)



(5) 既往10ヵ年時間帯別火災発生状況



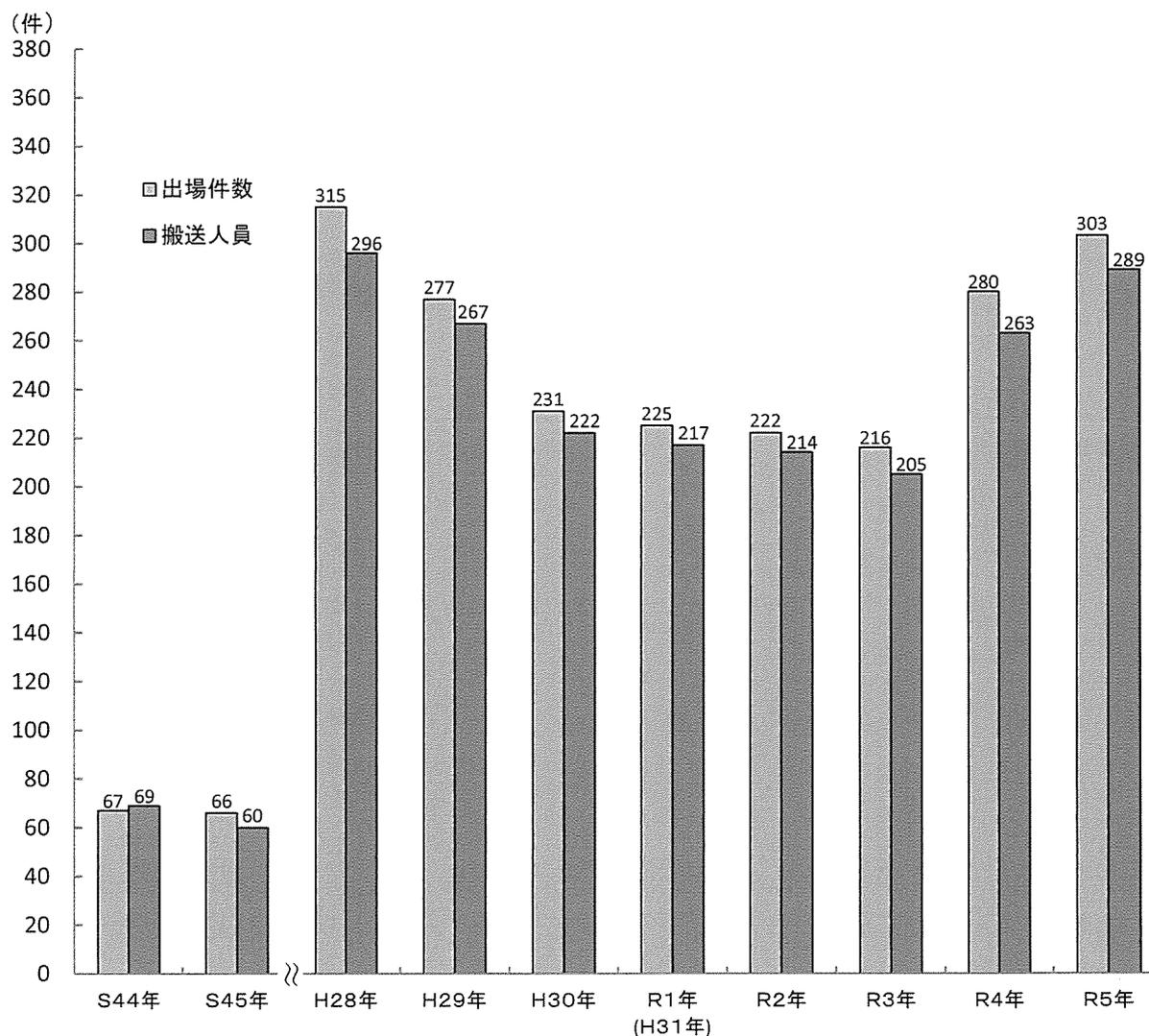
(6) 既往10ヵ年曜日別火災発生状況



2. 救急概況

出場件数	搬 送 人 員		不搬送件数
303	289	男 141	16
		女 148	

区 分 \ 年	S44年	S45年	H28年	H29年	H30年	R1年 (H31年)	R2年	R3年	R4年	R5年
出場件数	67	66	315	277	231	225	222	216	280	303
搬送人員	69	60	296	267	222	217	214	205	263	289



(1) 月別救急出場状況

月別	区分	事故種別											合計
		火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
1月	出場件数						1	6			20		27
	搬送人員						1	6			19		26
2月	出場件数				2	1					15	3	21
	搬送人員				4	1					14		19
3月	出場件数							10			21	1	32
	搬送人員							10			21		31
4月	出場件数							1			15	1	17
	搬送人員							1			15	1	17
5月	出場件数							10			22		32
	搬送人員							10			21		31
6月	出場件数							3			13	1	17
	搬送人員							3			13		16
7月	出場件数					1		8	1		17		27
	搬送人員					1		8	1		16		26
8月	出場件数							1			21	2	24
	搬送人員							1			21		22
9月	出場件数					1		3			20		24
	搬送人員					1		3			19		23
10月	出場件数							1			19	1	21
	搬送人員							1			19	1	21
11月	出場件数							4			22	2	28
	搬送人員							4			21	1	26
12月	出場件数							8			23	2	33
	搬送人員							8			23		31
合計	出場件数	0	0	0	2	3	1	55	1	0	228	13	303
	搬送人員	0	0	0	4	3	1	55	1	0	222	3	289

(2) 時間別救急出場状況

事故種別 時間別	火 災	自然 災害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
0 ~ 2							1			9		10
2 ~ 4							4			9		13
4 ~ 6							5			15		20
6 ~ 8							5			20	3	28
8 ~ 10							13	1		28	2	44
10 ~ 12					2	1	7			36	2	48
12 ~ 14					1		2			28	2	33
14 ~ 16							7			34	1	42
16 ~ 18							6			14	2	22
18 ~ 20				2			3			14		19
20 ~ 22							2			11		13
22 ~ 24										10	1	11
合 計	0	0	0	2	3	1	55	1	0	228	13	303

(3) 曜日別救急出場状況

事故種別 曜日別	火 災	自然 災害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
月					1		10			40	2	53
火					1		11			34	2	48
水							5			43	1	49
木				2	1	1	6			20	2	32
金							8			34	2	44
土							8	1		23	2	34
日							7			34	2	43
合 計	0	0	0	2	3	1	55	1	0	228	13	303

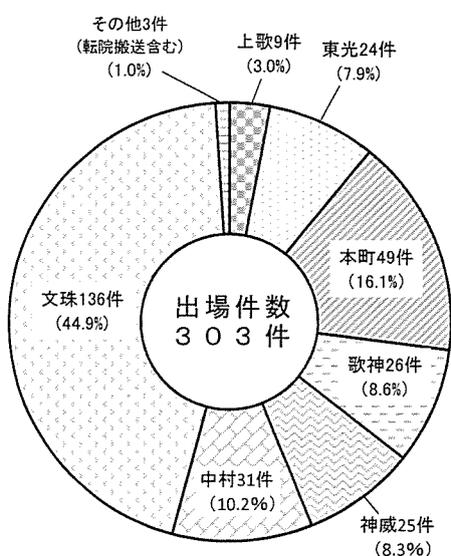
(4) 年齢・性別搬送状況

性別	年齢								合計
	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～	
男	3		1	4	9	12	15	97	141
女	2	3		4	2	1	12	124	148
合計	5	3	1	8	11	13	27	221	289

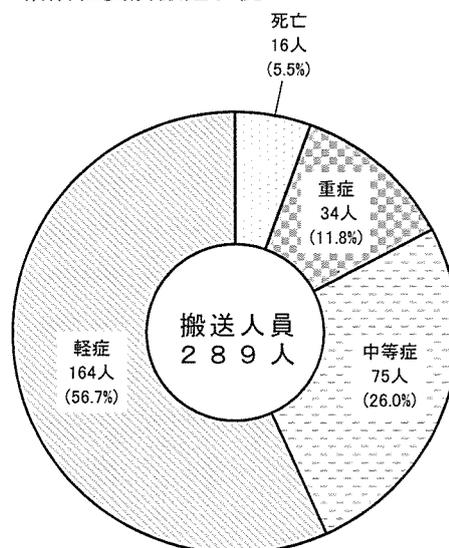
(5) 事故種別・性別搬送状況

性別	事故種別	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
		男				2	3		22	1		113	
女				2			1	33			109	3	148
合計		0	0	0	4	3	1	55	1	0	222	3	289

(6) 地区別発生状況



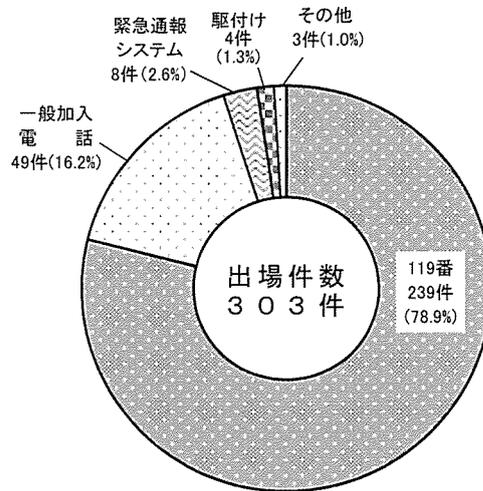
(7) 傷病程度別搬送状況



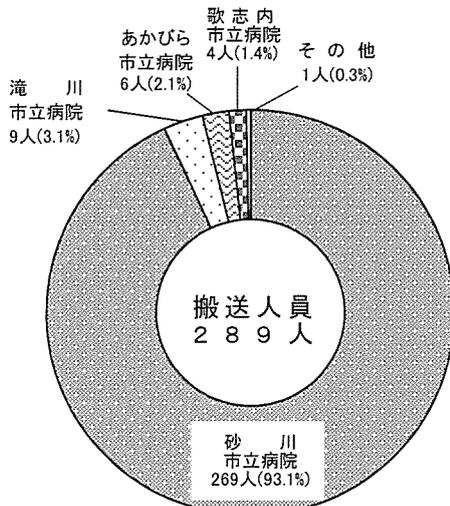
(8) 救急隊員の行った応急処置件数

事故種別	応急処置対象人員	止血	固定	人工呼吸	心臓マッサージ		心臓自動式心マッサージ器	心臓自動式心マッサージ器	酸素吸入	気道確保	用手・BVM等	喉頭鏡・鉗子等	ラリゲアルマスク等	保温	被覆	血圧測定器	聴診器	血中酸素飽和度測定	心電図	気管挿管	陰圧式患者搬送器具	感染防止用患者搬送器具	除細動	静脈路確保	心肺機能停止傷病者	心肺機能停止前	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖溶液	合計
					自動式心マッサージ器	自動式心マッサージ器																								
急病	222	5	1	5	(5)	55	3	(3)	209	1	217	21	217	174					7	1	1	(1)		1	2			920		
交通事故	4	4							4	4																			16	
一般負傷	55	7	24			5			51	8	54		54	30															233	
その他	8	3	4			2			7	2	8		8	5															39	
合計	289	10	37	0	1 (0)	5 (5)	62	3 (0)	(0)	(0)	(3)	271	11	283	21	283	209	0	0	7	1	1	(1)	(0)	1	2	0	1,208		

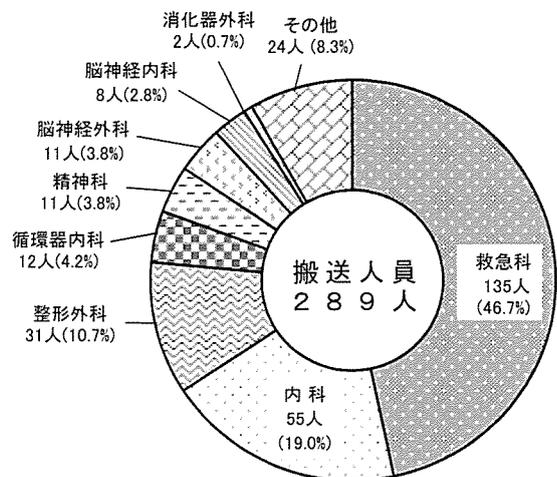
(9) 覚知別受信状況



(10) 医療機関別搬送状況



(11) 診療科別搬送状況



(12) 既往5ヵ年事故種別出場状況

年 別	事故種別											
	火 災	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
令和元年 (平成31年)						2	40	3	2	153	25	225
令和2年				6	1	1	34			162	18	222
令和3年				1	2		26		1	166	20	216
令和4年				5	3	2	41		1	205	23	280
令和5年				2	3	1	55	1		228	13	303

(13) 普通救命講習会実施状況

年 別	区分	実施回数	受講人員		
			男	女	合計
令和元年 (平成31年)		4	23	30	53
令和2年		新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴い未実施			0
令和3年		2	12	12	24
令和4年		5	29	25	54
令和5年		3	38	14	52

(14) 一般救急講習会実施状況

年 別	区分	実 施 団 体					実 施 回 数	受 講 人 員
		事 業 所	福 祉 施 設	観 光 施 設	町 内 会	学 校 関 係		
令和元年 (平成31年)		1	1				2	46
令和2年			1	1		1		40
令和3年							2	16
令和4年							1	5
令和5年		3	1				2	63

3. 救助概況（既往5ヵ年）

年 別	発 生 月 日	覚 知 時 刻	発 生 場 所	事 故 種 別	出 動 車 両			出 動 人 員	救 助 人 員	使 用 資 機 材
					タ ン ク 車	指 令 車	そ の 他			
令和元年 (平成31年)	救助事案なし									
令和2年	2月14日	7:44	歌神 27番地	交通事故	1			2	1	なし
	9月11日	12:35	文珠 244番地2	その他	1	1	1	9	1	3連梯子・20mロープ バスケットストレッチャー
	9月18日	10:20	本町 1004番地	交通事故	1	1		4	0	ACライト(2kg) 吸着マット
	12月28日	9:51	歌神 1013番地	交通事故	1		1	7	0	なし
令和3年	2月10日	7:53	文珠 110番地18	その他	1			3	0	角スコップ2丁 バスケットストレッチャー
	4月18日	18:24	歌神 1014番地	水難事故	1			6	1	バスケットストレッチャー 20mロープ
	7月30日	8:48	上歌 1005番地	交通事故	1	1	1	7	0	なし
令和4年	救助事案なし									
令和5年	9月26日	11:09	東光 30番地26	交通事故	1		1	4	1	三連梯子・吸着マット
	12月24日	17:42	本町 149番地	その他	1			2	1	なし

政 行 防 予

1. 月別建築同意・通知処理状況

月	別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
同意件数														0	
工事別	新築													0	
	増築													0	
	用途変更及び計画変更													0	
	修繕													0	
	移転													0	
構造別	耐火構造													0	
	準耐火構造													0	
	木の造													0	
	その他													0	
用途別	(1)	イ 劇場・映画館等													0
		ロ 公会堂・集会場													0
	(2)	イ キャバレー等													0
		ロ 遊技場等													0
		ハ 性風俗関連													0
	(3)	イ 待合・料理店等													0
		ロ 飲食店													0
	(4)	百貨店・店舗等												0	
	(5)	イ 旅館・ホテル等													0
		ロ 寄宿舍・共同住宅													0
	(6)	イ 病院・診療所等													0
		ロ 老人短期入所施設等													0
		ハ 老人デイサービス等													0
	(7)	イ 幼稚園等													0
		ロ 学校等													0
	(8)	図書館・博物館等													0
	(9)	イ サウナ浴場等													0
		ロ イ以外の浴場													0
	(10)	停車場・発着場等													0
	(11)	神社・寺院等													0
(12)	イ 工場・作業場													0	
	ロ 映画スタジオ等													0	
(13)	イ 車庫・駐車場等													0	
	ロ 格納庫等													0	
(14)	倉庫													0	
(15)	その他の事業場													0	
(16)	イ 複合用途													0	
	ロ イ以外の複合用途													0	
専用住宅														0	
自家用車庫・倉庫														0	
その他														0	
通知書	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
	件数				1	1						1		3	

2. 消防業務処理状況

区 分		件 数	受 付 件 数	処 理 件 数
危 険 物 関 係	製造所等設置許可申請			
	製造所等完成検査前検査申請			
	製造所等完成検査申請			
	製造所等変更許可申請			
	製造所等仮使用承認申請			
	製造所等譲渡引渡届		1	1
	危険物保安監督者	選任届		
		解任届		
	製造所等軽微な変更届			
製造所等廃止・休止（再開）・変更届		5	5	
少量危険物貯蔵・廃止届		4	4	
ボイラー等設備設置届				
防火対象物使用開始届		4	3	
露店等の開設届		11	11	
催物開催届		1	1	
吸収式冷温水発生機設置届				
圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱い開始届				
屋内消火栓設備設置届		1	1	
フード等簡易自動消火装置設置届				
自動火災報知設備設置届		3	3	
消防機関に通報する火災報知設備設置届		2	2	
非常警報設備設置届				
消火器設置届		2	2	
誘導灯・誘導標識設置届		2	2	
発電設備設置届				
蓄電池設備設置届				
揚煙等の行為の届		4	4	
道路工事届		4	4	
煙火打上げ・仕掛け届		5	5	
合 計		49	48	

3. 防火管理者業務状況

項別	区分	選任義務 対象物	選任	変更に伴う	変更に伴う	変更に伴う	消防訓練 実施	設備点検 報告
				選任届出	解任届出	消防計画		
(1)	口	7	7			2	7	2
(4)		2	2	2	2	1	3	2
(5)	イ	1	1					1
	口	4	4				4	4
(6)	イ	1	1				2	1
	口	5	5	1	1	4	10	5
	ハ	4	4	2	2	2	4	4
(7)		1	1	1	1	1	2	1
(8)		2	2			2	2	2
(11)		7	7				4	
(15)		8	8			5	10	7
(16)	イ	1	1					
合計		43	43	6	6	17	48	29

4. 危険物製造所等現在数調

区分	種別	自家用	営業用	合計	貯蔵又は取扱数量(ℓ)					保安監督者	
					第4類				第5類		合計
					第1 石油類	第2 石油類	第3 石油類	第4 石油類	有機 過酸化物		
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	1	2	600	600	16,800	9,000	100 (kg)	27,000 100 (kg)	1
	屋内タンク貯蔵所	3		3		12,480				12,480	
	地下タンク貯蔵所	16	1	17		227,400	145,500			372,900	1
	移動タンク貯蔵所	3	4	7		24,600	11,250			35,850	
取扱所	給油取扱所	1	2	3	43,800	61,300	1,600	3,000		109,700	3
	一般取扱所	5	1	6		78,800	15,000			93,800	2
	小口詰替専用一般取扱所		1	1		19,200				19,200	1
合計		29	10	39	44,400	424,380	190,150	12,000	100 (kg)	670,930 100 (kg)	8

5. 危険物規制事務手数料

手数料(円)	区分	完成検査前検査	完成検査	変更許可	仮使用承認
合計	0	0	0	0	0

6. 防火広報活動

春の火災予防運動（4月20日～4月30日）

秋の火災予防運動（10月15日～10月31日）

歳末特別警戒（12月25日～12月31日）

区 分	回 数	活 動 の 内 容
消 防 車 に よ る 広 報	35	春・秋の火災予防運動期間、歳末特別警戒
新 聞 等 の 掲 載	20	市広報紙「うたしない」掲載、災害対応型自動販売機電光掲示板、消防本部電光掲示板に掲示
防 火 ポ ス タ ー の 配 布	2	春・秋の火災予防運動期間、防火対象物に配布
放 送 施 設 の 利 用	116	春・秋の火災予防運動期間、歳末特別警戒、お盆、夏休みに火災予防広報を実施
消 防 訓 練	48	病院、診療所、学校、ホテル、高齢者福祉施設、身体障がい者更生施設、旅館等
サ イ レ ン 吹 鳴	4	春・秋の火災予防運動期間に実施
事 業 所 啓 発	1	団本部団員による歳末防火広報
防 火 座 談 会	2	春・秋の火災予防運動期間に実施
商 業 施 設 防 火 P R	1	秋の火災予防運動期間に実施



歌志内市消防シンボルキャラクター
〈ホルンくん〉